

学校だより

しらかわ



飯豊町立添川小学校

2021. 10. 7

第12号

いきいき なかよく ほこりを持って

一日授業参観ありがとうございました

10月2日（土）は、一日授業参観にご来校くださり、誠にありがとうございました。

1校時は授業参観で、全学級「こころとからだの学習」を行いました。1年生「くすりのつかいかた」、2・3年生「タバコの煙」、4年生「まちがえないでお酒!」、5年生「飲酒と健康」、6年生「with コロナ」の学習を行いました。1年生は、佐藤仁薬剤師さんから理科室でご指導いただきました。

2校時は持久走大会。今朝までの雨でグラウンドコンディションはもう一つでしたが、一人一人、練習の成果がよく表れた大会でした。子ども達は、保護者の皆様の応援をいただいて、子ども達の走りは格別だったと思います。素晴らしい新記録も生まれました。

さて、この紙面では、主に3校時に行いました「学校保健委員会」の報告をさせていただきます。米沢市のみつば治療院・整骨院院長の伊藤利春先生のご講演「身体の成長と柔軟性について」の概要、さらに、学校歯科医寺嶋誠先生、学校薬剤師佐藤仁先生のご指導から、要点をまとめて報告します。

<伊藤利春先生のご講演「身体の成長と柔軟性について」より>

子どもの時期に身に付けておきたいことは、「姿勢（立腰）」であり、「環境に適応するチカラ」「こころと脳」の健全な成長である。

「よい姿勢」を実際にやってみよう。「足の裏をしっかりと付けて、両方のおしりを均等に付けて、その真上に頭がきて、そのまま5mm身長を伸ばし、深呼吸する。」

林修先生も言う。「勉強できる子は、基本的な生活ができており、姿勢がよい。」脳の栄養は、ブドウ糖と酸素である。そのために、よい姿勢が大切で、重力に対して上に成長していくためにもよい姿勢が大事である。

なぜ、運動・遊び不足になってしまったのか。3つの「間」が減っている（「仲間」「時間」「空間」）。また、あまりにも便利な社会だ（住環境、周りを取り巻く環境）。

人間の基本の動きは36種類。多くの動きを体験させたい。また、成長期にスポーツ的な習い事を2～3くらいさせたい。体の柔軟性を維持するには、例えば鬼ごっこやかくれんぼなど、遊びが有効。たくさん刺激がある。体を使って得られる力は無限大である。

人間の能力には、「認知能力」と「非認知能力」がある。「認知能力」とは、IQ（知能指数）テストや試験で測定できるもの。「非認知能力」とは、目で見えない、計算できない力。自分に関する力（自尊心、自己肯定感）、人と関わる力（社会情緒的スキル）。

大人ができることは、「子供は自らの力で成長する。大人は子供の発達にあった環境を整備し、見守ること」（モンテッソーリ）である。

なお、学校歯科医の寺嶋誠先生から、「よく噛む」ことが脳の成長、むし歯予防につながるとご指導いただきました。また、学校薬剤師の佐藤仁先生から、体を動かして、よい睡眠をとることが免疫にもつながるとご指導いただきました。また、下校時、「引き渡し訓練」にもご協力いただき、誠にありがとうございました。

【おめでとう】 令和3年度添川小学校持久走大会

(敬称略)

4年男子800m 大会新記録

横澤 蒼祐 (記録 2分57秒)

<ミニコラム> 子どもの心とことばを育てるために (その20)

不十分なメッセージに歩みよる

言葉を持たず泣きじゃくる赤ちゃんを大人は抱き上げます。「どうしたの?」と見つめ、泣いている理由に気付こうとします。つまり、赤ちゃんは、何かに気付いてほしいときに泣くのです。それが生きる力です。人間は思いを伝えるためにいろんな行動をします。幼児も小学生も思春期の子も大人も基本的には同じです。誰かに気付いてほしくて、言葉以外でのシグナルを発し助けを求めているのです。

「ちゃんと言わなきゃわからない」というのは、気付けない大人の言い訳に聞こえます。子供たちが『悪ぶって荒れる』のも、『耳障りな言葉』を使うのも、『乱暴』になるのも、『うつむいて話をしない』のも、実は、自分の存在や気持ちに気付いてほしいシグナルなのです。必ず、理由があることを忘れてはいけません。子供は、まっさらな心で生まれてきたのです。成長過程にある子供たちには「助けて」を上手に表現することや、受けとめる能力が十分ではありません。その不十分なメッセージに歩みより、批判ではなく受けとめて「わかってあげる」ことも大人の責任ではないでしょうか。

しかし、その一方で、あるお母さんが「私だって苦しい」と泣いていました。実は、大人も、親としての輝きを失い、大切な子供に自分の『思い』を伝えられずに苦しんでいるのです。このままでは、思いだけが空回りの親子に『つながり』が不足し、『家族』の存在が希薄になっていくような気がします。

家庭は、命をはぐくむ女性の子宮のようなものであってほしいと願います。人は、生まれるまでは子宮の中で、生まれたら家庭の中で、生きる力を身に付け、それを伝えていく立場に成長していくのではないのでしょうか。 『ごっとさん、どうしよう!?!—思春期をめぐるSOS—』 (後藤敬子著、荘内日報社)

飯豊町PTA連絡協議会研修会 (10/8~10/18 に YouTube 配信) の講師である、ごっと助産院院長後藤敬子先生の著作から引用しました。以前、私も講演をお聞きして感動しました。ぜひ YouTube 配信をご覧ください!

誠にありがとうございます

学校後援会様より、体育館に掲示してある「学校教育目標」を写真のようにリニューアルしていただきました。学校教育目標の具現化に向け、心新たに日々の教育活動を推進してまいりたいと思います。また、飯豊町添川財産区様より、写真の「レーザーペッカー」を2台ご寄贈いただきました。レーザーペッカーは、木材等の様々な物にレーザー光線で文字等を焼き付ける器具です。木材を使った小物や製品作り等を通して、緑の少年団活動に有効に活用できます。改めまして、深く感謝申し上げます。

